

## 会報

会費振込先 第一勧銀川崎支店東北大学ワグ-フォ-ゲMOB会 普通口座(370-1881604)  
 ホームページ <http://www.jade.dti.ne.jp/~nishikaw/tuwv/>

## 妙高から雨食巾山へ O B 山行

8期 佐藤拓哉

荒菅沢から2ピッチで稜線に飛び出すと、気持ちのよい笹のゆるやかな稜線が頂上に向かってのびている。笹を渡る風が心地よい。最後短い急登を登るとようやく頂上である。26期みんなはまだ来ていないようである。風をさけてコーヒーを沸かし、昨日登った火打山方面のスケッチを描きながらみんなを待つ。

1時間程待っていると、稜線直下の急登を登っているそれらしきグループが見える。緑色のシャツ、ネジリ鉢巻きを頭に巻いた短パン、5人がバラバラのようでもあり、同じグループのメンバーのようでもあり……。待っているのに、頂上直下で昼メシを食い始める。おまけに、頂上に着いても、我々が待っている方のピークには来ずに、もう一つのピークで休んでいる。仕方がないので、こっちが移動する。

1年ぶりの再会である。去年剣岳で会っただけなのに、小原さん(4期)は初対面なのに、やはり昔からの山中間のような気がする。ネジリ鉢巻きに短パンはやはり平田くん、去年と同じワングルシャツは伊田くん、北村くんは相変わらず魚のソーセージと食パンである。小泉くんと小松くんは今年が初対面である。聞けば、2日酔いでペースが上がらない人がおり遅れてしまったとのこと。

結局頂上で2時間ゆっくりした後、来たコースを引き返す。26期みんなは下りはめっぽう早い。沢まで下ると今度はみんながのんびり待っていた。朝は正面から陽が当たって明るかった岩壁も、深い陰ができており一段とすごみが増して見える。

駐車場からは定員オーバーで小谷温泉山田旅館へ。山に来て、帰りに温泉に入ることはあっても、旅館に泊まるのは初めてである。帰る日の15日は、朝から台風による雨に見舞われた。1日ズレていたら悲惨な目にあうところであった。

とにかく9月14日の晩に山田旅館に行くということだけを決め、小原さんと12日の朝早い新幹線で長野まで行き、燕温泉へタクシーをとぼす。燕温泉からは沢沿いのコースをとる。沢から離れ一気に急斜面を登り、トラバース気味に進むと黄金清水に着く。山の水場はりっぱな名前がついている所が多いが、苦勞して登ってきて旨い水に出会った時には、その名前が「さもありなん」という気になる。

長助池はちょっとした湿原でなかなか感じがよいところである。分岐に荷物を置いて妙高山頂に向かう。なかなかの急登である。山頂付近は灌木帯か草の生えたザレ場のようなイメージを持っていたが、高い木におおわれている。頂上直下でバテバテになり、「何か食おう」とどちらからともなく悲鳴をあげた。頂上はそこからわずか5分、バテた時はこの5分がどうにもならない。

黒沢ヒュッテに着いた時にはもう薄暗くなっていた。いい季節とあって、ヒュッテは超満員である。やはりテントは楽しいわが家である。夜は天の川もよく見えた。

13日は素晴らしい天気である。紅葉が朝日に輝いている。ヒュッテの前からゆるい登りを登ると湿原が見渡すことができる。それ程広くはないが、色づいてきれいである。1時間程で高谷池小屋に着く。小屋の前に荷物を置いて、火打山に向かった。途中の天狗の庭は非常にきれいな湿原である。小さな池塘が鏡のようにたおやかな火打山を写している。妙高とは異なり、火打ち山は灌木に覆われた山で、非常に明るい。こういう山はいい!

頂上は気持ちよい所である。遠く、北アルプス、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳、富士山が見渡せる。焼山の肩越しにこれから行く雨飾山が見える。標高は火打山よりかなり低い、遠目にも岩壁に固められているのが分かる。頂上でコーヒーを沸かし、スケッチをしてから下る。このんびりが後々地獄の強行軍につながるとは。

焼山が登山禁止なので、高谷池からいったん下り、林道を小谷温泉まで歩いて、雨飾山に登りかえすことにする。林道に出た時はもう3時である。これから長野県まで林道を歩くのは気が重い。

車両通行止めの林道はただただ根気よく歩くしかない。暗くなりかけた頃ようやく峠のトンネルに着く。トンネルの中間に県境の標識がある。トンネルを抜けると長野県側の電気の光が見える。暗くてよく分からないが、崩れそうなガケがしばらく続く。テン場によさそうな所を探しながら歩くがなかなかない。8時半過ぎたらどこでもいいから泊まろうと思っていたら、ちょうどその時間になった時に、林道脇に広く平らな所があり、近くに沢もある所に出会った。これ幸いとテントを張る。翌日になって分かったが、その先にもテントを張れる場所はなく、まったく幸いであった。それにしても13時間以上もよく歩いたものと、我ながら感心する。

14日もいい天気だ。30分程で小谷温泉からの道に出る。遊歩道を少し入った所にザックを置き、雨飾山に向かって自動車道路を歩く。26期の連中が車で来ないかと後ろを振り返りながら歩いているうちに、とうとう駐車場に着いてしまった。これで、昨日の国民休暇村から全部歩いたことになる。後で聞いた話では、こっちが駐車場を出発した10分後に車で着いたとのことである。

15分程沢筋を歩いたところから急な取り付きが始まる。道がトラバース状になるとやがて、急に目の前に荒菅沢上部の荒々しい岩壁が現れる。正面から陽を受けて、岩が白く光っている。ここからが急登の連続である。26期のみんなとの再会を楽しみに、とにかくただひたすら登った。

#### 平成11年のOB山行

目的の山 : 焼岳 上高地大正池に姿を写す火山  
 日 程 : 9月23日(祝日)、24日(金)、25日(土)、26日(日)  
 集 中 : 24日か25日に焼岳に登り、25日に新穂高温泉の宿に宿泊  
 問い合わせ : 26期 伊田浩之 東京都三鷹市下連雀7-16-12 第2清水マンション302  
 (tel 0422-49-0432、携帯 010-61-35387、e-mail haitaka@msb.biglobe.ne.jp)

#### 安達太良山くろがね小屋 8期同期会

相原 敬

今回の山行は懐かしい顔に囲まれて、感激、興奮の連続でした。奥岳温泉でみんなに出会い、くろがね小屋までの行程もまるで毎週一緒に山に行っている部員同士みたいに、何の違和感もなく、肩の力も抜けて自然にワイワイ登った。この集団はなんだ。30年間背負い込んだ荷物を奥岳温泉にあずけて、小屋で再会した時は学生時代に戻っていた。卒業以来あまり変わらない人や、えらくスマートになった彼女もいて、それぞれ昔のままに自然に接することができ、つよいきずなど自分達の原点を感じました。

小屋の前で雛飾り状態で並んで見た星の下で、時がゆっくり流れていくようでした。人数が多かったの(時間が少なかったかな)十分に話はできませんでしたが、夜眠れなくて外に出て守護、幸英君と星を見上げながら、守護が持ってきた「おいしいかもしれない」というあやしい酒を飲み、3人で話をしました。

拓哉夫婦は想像どおりで、訳もなくホッとしました(拓哉のバタ臭さと、オギヤーの品の良さは昔から全然変わっていなかったということと理解して下さい)。美恵子は見違えるほど小さくなっていたので驚きました。病み上がりとかで、ちょっと元気がなかったようで心配しましたが、聞いてみれば同じ病気、同病相哀れむということで、歩きながらいろいろ話を聞くことができました。

ちさとお嬢が目茶明るくて楽しさも倍増しました。

病気したせい、それとも年をとったせいでしょうか、自分がとても優しくなったような気がします。自然に対する感性も敏感になったような気がします。

1ヶ月も前から楽しみにしていた出会いでしたが、あっという間に2日間が終わってしまい、別れの時は思いが言葉にならず、胸がつぶれる思いでした。またみんなで、日の出を見て、一面の雲海にたたずみ、水場で冷たい山に触れ、露天風呂につかってビールで乾杯したいな。

参加者：4期 小原

8期 相原、小笠原、佐藤拓哉 & 良子、守護、根岸、浜 & お嬢さん、前田、三日月、宮下 & お嬢さん、渡辺

9期 伊藤健一 & 千代子、富川、桃谷

コース：9/19(土) 晴 奥岳温泉(あだたら高原スキー場) → 勢至平 → くろがね小屋(泊)

9/20(日) 快晴くろがね小屋 → 峰の辻 → 安達太良山頂 → 五葉平松 → 奥岳温泉

## ⊗OB山行(21期~24期) 二口・樋の沢

【行程】平成10年5月16日(土)

15時30分 本小屋  
17時20分 樋の沢着  
~深夜(宴会)

5月17日(日)

9時30分 樋の沢発  
(小東岳ピストン)  
13時00分 樋の沢着  
15時30分 本小屋着  
17時30分 秋保温泉解散

「二口溪谷概念図」(61KB 時間がかかる場合あり)

【参加者】

<21期> 菊地、坂本、桜庭、千田、針生  
<22期> 石川、坂口、高橋、土屋、手塚、西川  
<23期> 嵯峨  
<24期> 道郎



(樋の沢の避難小屋)



(かまどを作りエッセンを開始)



(避難小屋の内部)



(千田さんが釣ったイワナ 2尾)

### 樋の沢までは1時間では行けない!

念願かなって二口のOB山行が実現した。卒業してから15±2年、年齢にして30代後半のOB、21期から24期の面々に声をかけて、最終的には13名が参加することになった。

本小屋に15時集合としたが、新幹線で仙台に来る人が多いため、地下鉄「長町南」駅に13時30分に集合し、3台の車に分乗して本小屋に向かう。いつもの東京組に加え、仙台地元の土屋、道郎、岩手から嵯峨、山形から菊地さん、針生さんと東北勢が参加しているのが今回のメンバーの特徴である。

本小屋から樋の沢に向かう道は、思いのほか起伏が激しい。かつての道が崩れ落ち、高巻かなければならない箇所もあったが、それより15年の時間が記憶を変質させてしまったことが原因かもしれない。

コースタイムも「樋の沢まで1時間」と見ていたのだが、そんな短時間じゃとても着かない。結局2時間近くかかった。樋の沢の案内図を見ると「6km、2.5時間」とあるではないか。その案内は正しかった。

途中、「雨滝」、「京淵沢」、「ケヤキ沢」など懐かしい場所を経由した。

### 樋の沢小屋はきれいな小屋、運良く他の宿泊者なし

樋の沢には奇麗な避難小屋があった。2階建て。30人位は泊れるだろうか。

この日は土曜日だというのに運良く他に宿泊客はいない。心配していたワグネル現役部員の訓練合宿パーティーも見当たらない。そこで、テントは張らず、小屋に宿泊することにする。

ブロックを積んでカマドを作る。dinnerは焼肉と豚汁。ビールを飲みながらエッセンをする。昔の水場はいまも健全。冷たい地下水を供給してくれる。樋の沢の「樋」の部分も相変わらず水量をたたえている。

小屋に着いてすぐに釣竿をもって沢に降りていた千田さんが、イワナを2匹釣り上げてきた。大きい方は30cm近くあるだろうか。腹を裂いてカマドで網焼きにする。

## 大東あきらめ小東へ、懐かしい山々

17日は朝の5時頃まで激しく雨が降っていた。これでは山登りはやめて、本小屋に直帰するしかないか、と諦めかけていたところ8時を過ぎて雨はあがった。9時を回った頃、稜線を覆っていたガスも晴れたので小東くらいならいけるだろう(=天気のみならず、大東の急登はイヤだという意見もあって)ということになった。

小東峠、小東肩を過ぎて約1時間で小東岳ピークに到着する。運良く稜線に出たころには太陽が照りつけてきた。遠くは朝日連峰、飯豊連峰まで望むことができる。今年は5月中旬にしては雪が残っていない。二口では山形神室に小さな雪渓が残っている程度である。

小東岳からは訓練合宿(特に2次新)で歩いた道を見渡す。南方向には山王、龍、瀬ノ原、清水峠、仙台神室、山形神室があり、北方向には南峰、小南コル、南面白、北面白、東には大東岳が大きく見える。

小東肩でLunchを取る。スライス(薄めの食パン)にイワシ缶詰をはさみ、マヨネーズをかけた代物で、これもワングル時代と変らぬメニューである。

樋の沢に下りて、荷物をまとめて同じ道で本小屋まで戻った後は、車で秋保温泉華の湯(テルメ)で汗を流して解散する。2日間というもの、まったくタイムワープしてしまった。15年を経てあらためて感じる「二口」もいいものである。

(5月18日 西川記)



(「小東岳」ピークにて)  
針生、菊地、高橋  
俊庭、手塚、石川、坂本、西川、土屋  
道郎、嵯峨、坂口、千田

## ☒ワングルの新部室

平成9年12月17日(水) 仙台にて

### 伊藤道郎に会って「二口OB山行」の話をする

仙台に出張しました。17日の日中、時間があつたので久しぶりに伊藤道郎くん(24期)に会って食事をしました。彼はいま仙台の間組にいます。土木技術関係の知識を生かして営業の仕事をしています。

来年の二口OB山行の話をしたところ賛同してくれました。土屋とともに彼にも手伝っておうと思います。彼の話によると、大行沢入り口の「二口山荘」周辺は休日になると家族連れがやってきてバーベキューで賑わうくらい開けてしまったそうです。樋の沢に立派な小屋ができたことを考えると大行沢は人通りが多くなったに違いありません。われわれが山行を行うとすれば「樋の沢」がいいかもしれません。OB山行はアプローチがしやすい場所が適しているように思います。

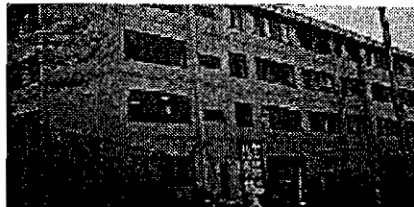
### ワングル部室～外見は立派になったが室内は昔と変わらず

伊藤道郎くんと別れたあと東北大に向かい、ワングルの部室を訪れました。掲示板に伊田くんが書いているように川内郵便局の前にはいまは部室はありません。扇坂から少し下ったところに新しい部室棟があります。写真のように立派な4階建てです。

ワングルの部室は2階の218号室です。訪れたのが13時すぎだったためか部員は誰もいませんでした。部屋のスペースは以前と比べると少し狭くなったような感じがしました。ザイルが部屋の中にあるところから推測すると倉庫がないのかもしれませんが、もしそうなら大幅なスペース減です。

本棚には「山溪」や「報告」やマンガが雑然と並んでいました。アイドルのポスターが貼ってありました。昔と変わりません。

また「貼り紙」で情報伝達を行う方法も昔のままです。時節柄か山行の企画はなく、借金催促のメッセージが目立ちました。



(部室の外見 218号室がTUWV)



(本棚には山の資料が雑然と...)



(倉庫がないのか室内にザイルが)



(昔と変わらない貼り紙)

## あの人は今・・・近況報告

(TUWVOB会のホームページからも抜粋)

## ボランティア活動と私

卒業して仙台を離れてから今日まで30余年、勤務地はほぼ「東京・新宿」、何時の間にか「新宿」が第2の故郷となってしまいました。

第1回戦を無事に勤め上げ、現在は同じ新宿のスパビルで第2回戦勤務というところです。

第2回戦の勤務では通常の勤務の他に、いろいろなボランティア活動に精を出して、愛する新宿のために無報酬でガンバっております。

「新宿・中央通り管理委員会 委員長」、「新宿西口振興会 理事」等々  
『新宿・中央通り管理委員会』は新宿駅西口正面から東京都庁までの道路・南北両側のビル群（一部超高層ビルを含む）の団体各社、「新宿西口振興会」は、正に新宿駅西口の正面ロータリーを取り巻くビル群（小田急、京王を含む）の団体各社』等々、新宿西口のいろいろな民間各社教団体の委員長・理事・役員を兼任いたしております。

新宿西口を清潔な・美しい街にするために、民間団体の意見を取り纏めて「東京都・青島都知事」や「関係省庁」に請願書をだしたり、官・民との話合や官・民一体となった事業を展開しております。

従って、お付き合いの相手は「民間団体」に加え、「東京都」、「新宿区役所」、「新宿警察署」、「新宿消防署」といったところが主なものになります。

近々、新宿西口広場が耐震工事を含め、明るく・美しく生まれ変わりますので、ご期待ください。

この活動を通じて得たものは大きく、自分の人生に計り知れないプラスをもたらしてくれました。第1回戦の「会社人間の世界」では得られない貴重な体験・知人友人の広がりです。

要は、「会社人間時代には見えなかった別の世界」があったということです。会社を離れて自分を見つめ直す意味でも、ボランティア活動に参加することを、お勧めいたします。

ここで余談を一つ御紹介しましょう。

今年行われました「ミス新宿」の審査委員をやりました。

「\*\*\*委員長」として胸に大きなリボンを付けて、美しいお嬢さんへ質問したり、審査したり、握手したり、花束を贈ったり、一緒に食事したりで、美女に囲まれた楽しいひとときを過ごしました。

一度やってみたかった事の一つで、役得とはいえ、大変結構でした。

39年卒 岡 好 宗

今年の社内旅行は松島&作並でした。  
作並温泉は岩松旅館をリコメンドし、  
久し振りに有名な露天風呂につかり  
ノンビリしました。作並街道は中学、高校  
時代のマラソンコースでしたかすっかり  
変ってしまいました。最近、中学、高校の  
同級生と麻雀やゴルフを始めました。  
昔の仲間が楽しい。  
S.41 横山雄一郎

7/05(日)に、山形県の黒伏山で亡くなった、同期中川の七回忌がありました。中川が亡くなった時に在籍していた仙台山岳会より連絡を受け、同期の芹澤、森田、嵯峨の三名と、仙台在住の22期土屋さんが参加しました。当日は、直前まで、亡くなった場所が見える場所で法要を営むものと思っていたのですが、ご両親も一緒に、岩壁の取りつきまで約1.5Hの登山道を登りました。岩壁取りつきまでは、仙台山岳会が切り開いたと思われる登山道があり、途中の沢には「中川橋」と命名された橋がありました。仙台山岳会では何も準備をしていないようでしたので、私(嵯峨)が申し出て、改良衣に着替えて七回忌を執り行いました。

'98/12/07 19:35 嵯峨光喜(ksaga@ibm.net)

マイペースで山行を再開しました。  
 春 相模大山 95近く登り始めて、石巻沢で焚き火を見ながらオロレ  
 夏 妙高火打、雨飾 現役の夏合宿を思い出したハートな山行  
 夏~秋 安達太良 くさかね小屋で現役に戻った気分を味わった静かな  
 秋 磐梯 ゴールデンの駐車場から中の湯経由で冷たいが29の山頂 台徒走  
 秋 但馬山 巻道と秋の山 週末気まづに出ました。  
 合 昔山 相模川で飲んで



妙高火打の5 焚き火と雨飾 小原/松 4期 1998.9.13

仙台から長野に移り住んで、はや23年が過ぎました。子供達4人はすでに家から出ており、女房と2人きりの「スッキリ」した生活を送っています。長野市の北にある飯綱山(1917m)のふもと(海拔1100m)の別荘地に住居をかまえて12年、はげしい季節のコントラストのある環境に満足しております。家からゲレンデまで700mなのですが、体力の衰えを自覚して、最近ではテレマークスキーで、女房と戸隠付近を歩いています。

仕事の方では、1999年から3年間、南極の昭和基地で高層大気の越冬観測を行う予定です。残念ながら小生、年令的にオーバーしてしますので、研究室の若手が行くことになっております。

我々の中年にとって厳しい時期ですが、老人社会となる21世紀は、我々が主役となる時代です。  
 野村章夫(542年卒)

大変ご無沙汰しております。現在横浜市の三浦区(区)建設局横浜国道工事事務所、江戸川区から通う生活でしています。

となく公共事業に批判的の意見がある。昨今の下り、国工発注の計画的整理を担う現場の責任者として、結構忙しい毎日です。

ところで、最近山帰りが主ですか。12-517-5山に登ります。中高年の登山アムと云う。平華がオノのまゝと元気良きに戸御下りして。二重登、五上越の平標山では、バスツアーの一行の高齢者集団と出くわし、登山アムを云う。24の年齢(下)です。

東京周辺の有名山はほとんど人が行く。のんびりとした静かな山行は難しく感じますか。どこか未だのいい山がまだある。ご報告下さい。

東京都江戸区平井7-33-1-104  
 (印) 却母水 (13期)

88年卒の江端です。この4年周、学生部長という超多忙な公的  
 生活を送り終ったが、この10月解放されて、少しだけんびりと過して  
 います。机に座っているばかりの生活で、体力は衰えるばかり、歩いたり、  
 山歩きのからむ遠くまでいけません。この年になれ娘も息子も独立し、二人きり  
 の静かな生活を送る毎日で、10年くらい休むとか、元来正座が  
 得意なもので、という訳でもありませんが、茶道に志し、結果として、  
 正座がものすごく上手になって、現在も精進水廻りしています。  
 同級生の中からはリタイヤした人もいすかと思えますが、私もそろそろ定年後  
 の事を考え、と考えれば、今の生活は年々楽々といえます。子供も簡単に整理が  
 つまらぬ。まあ、こんな毎日を気楽に送っていますといえなくもありません。  
 九州、とくに熊本近くまでおいての節は、声にかけて下さい。

\* 同期会でも、別金要があるかと思いつく、久し振りに \*

そんな中でやはり山歩いと、とトビックスは1/2で実施された  
 中の興味を植えつけようともくろんでいる昨今です。  
 なが山登りの時間を作れるか状況です。少くとも家族の  
 さとろんの子供(あとも世話の身はまかせたりできる)でない  
 とはい分近頃の山々は歩いてきまらぬが、今は仕事のため  
 よした。最初日頃の利もあって、一人で、あるいは会社の仲間  
 仙台を、80年に頼んで、杉本君も18年にもなっています。  
 御無沙汰をいっております。17期の日の高橋伸幸です。  
 \*\* 学生気分にはびたさを感じました。(潜)

S47年卒の鈴木(元)です。  
 息子が一緒に遊んでくれる「よき時代」には、よく「山」  
 に行っていました(ハイシーズンは除く)。尾瀬と丹沢が  
 中心でしたが、一時はアラスカまでテントをもって出  
 かけたこともありましたが、最近になつて、息子も  
 忙しくなり、遊んでくれなくなりました。  
 仕方が無いので、会社の同僚や仕事関連で知り合った  
 仲間(ほぼ同世代)と「島」に行ったりしています。  
 一昨年、日本海に浮かぶ「粟島」(人口400人)、今  
 年「佐渡」に行ってきました。いずれも、現地の民宿  
 に泊り、夜は「地のものを肴に地酒」という軟弱なも  
 の(粟島では「たき火」を修行)ですが、海を渡るという  
 のは、ちよつと気分がよいもので、粟島の時は、海か  
 ら眺める「朝日連峰」など大変よろしいものでした。  
 来年2月は日本最西端の「五島列島」を狙っています  
 (日本最北端、日本最東端、本州最北端、本州最東端  
 は到達済み)。  
 8年前、実現しそうだった夢の「千島」は、ソ連が崩  
 壊し、もう実現しそうにありません。せめて「北方四  
 島」には行きたいと思っています。  
 また、自宅近く(横浜)ではカヌーで運河を漕いだり  
 しています(まだ2回ですが)。あんなトブ川を漕いで  
 何が面白いのかと言われていますが、・・・  
 というような訳で、熟年に近づいている(もう熟年か)  
 にも拘わらず、相変わらず馬鹿なことをしております。  
 (72年卒：鈴木元)



## 第27期(63卒)の市川です

3年くらい前、力量の揃った男女Partyが会社で結成でき、ワグナル以来の山行の日々を過ごしておりました。大雪から石鎚まで日本中の山々へ、冬も安達太良や八ヶ岳の天狗岳に登ったりしていました。

しかし最近、女性メンバーが次々と結婚してPartyを去り、野郎だけが取り残されました。結婚式では最終ワグナル以来のスタンプまでやったりして…。

今は娘(明穂、2才)と山行を共にする日を楽しみにしています。ワグナルに頼ったとはいえ、64番目の百名山 霧ヶ峰(車山)に今秋、娘と妻と登りました。

山に行きたい名古屋近郊の方、声をかけて下さい。溪流シューズも持っています。

## 27期 市川 周一

OB・OGの皆様お元気ですか。幹事よりの突撃の指名で、とまといつとも筆をとりました。卒業後、しばらくブランクとありましたが、三四年コンスタントに年数回の山行を楽しんでいます。専らと娘(小六)が一緒です。高校生の息子をたは逃がらぬました。昨年は、金峰山・秋田駒・日光白根山・筑波山・高水三山、今年は大室山(西丹沢)と奥日光に行きました。装備は一流、体力三流のいりやう。中高年登山者の典型ですが、なぜかホリタンだけは、WV時代の遺物を愛用しています(まだ十分使えるので)。

51年卒 遠藤洋一

信州・松本から山形に移り住んで間もなく3年になります。以前は常念や蝶ヶ岳が窓から見えていたのに、こちらでは蔵王の瀧山(1362m)しか見えず少々寂しい思いもしました。

それでも最近、真っ白に尖った雁戸山や朝日連峰を街の交差点から仰ぎ見るのが楽しみになってきました。考えてみれば、この辺りの山々は20年前の思い出の場所。見るたびに学生時代にトリップできます。気分はそうなるのですが、体力は完全に落ちていて、本年夏、二口で行われたOB山行でそれを痛感したのでした(私以上に落ちている人も何人かいました)。

S57年卒 針生久和

転身に余儀なくされて早1年、お陰様で元気です。

勤めはかつてのセルサイドから一転バイサイドというところで、その点では180度ターンしたわけですが、どこに行ってもストレスはつまるもの、これも給料のうちと割り切って電車に揺らして…。

こうこうして…うちには50才の一里塚を…つづまにか過ぎ、律儀に五十肩で難儀はしたので、休日毎に近くのスポーツクラブで、皆様からすればまじまじの運動をしています。皆様も何かと大変だと思いますが、健康が第一です。ご自愛を祈念いたします。 朝野



- 伊田浩之 (26期) <haitaka@msh.biglobe.ne.jp>  
>平塚君の本は小学館のホームページにも載っています。  
アドレスは、  
<http://skygarden.shogakukan.co.jp/skygarden/owa/sol98>  
です。10月9日発売ですので、当然「絶版」にはなっていません。

ホームページを開くのが面倒という人のために、一部、転載しておきます。

-----  
『2万5000分の1 地図の読み方』(小学館、平塚晶人)

A 5・192頁・定価:本体 1600円+税  
発売日1998/10/09 ISBN 4-09-366111-1

登山地図をそろそろ卒業したいという山歩き愛好者に2万5000分の1地形図の読み方の初歩から実践までを講座形式で教えます。別冊地図帳に書き込んでいっているうちに、知らず知らずに地形図の読み方が身につきます。

中高年を中心とした、山歩き愛好者が急増していますが、初心者には知人に誘われて山の会に入り、リーダーに連れられて山に登り始めることになりがちです。この時点では地形図を読む必要もなく、また地形図の読み方を教えてくれるようなこともありません。しかし、山好きがこうじてくると、会の活動だけではあきたらず、少人数で好きな山に登りたくなってきます。このとき地形図を読める人がメンバーにいればよいのですが、ほとんどは、ガイドブックを頼りに山へ登ることになりません。そのため道に迷ったときに現在位置がわからず、最悪の場合は遭難するというような事態に陥ることになります。地形図が読めるということは、自分の現在位置を知ることです。現在位置が確認できれば、危険ははるかに軽減できます。ところが、この山歩きに必要な地形図の読み方は、高校、大学の山岳部でも所属しない限りは教えてもらうことができません。自分の行きたい山に自力で登るためには絶対に必要なことだと知りつつも、中高年の山歩き愛好者には学習する機会も書籍もないのが実情です。そんな山歩き愛好者のための、地形図読みの初歩から実践までが、別冊地図帳に書き込みながら自然に身につく教科書です。

- 島崎 質 (4期) <shimasak@mb.infoweb.ne.jp>  
>今夏の山行報告 (98年8月30日)  
7月末、高所順応とトレーニングのため北岳バットレス4尾根フランケ上下 (ガイド付き)。寝不足のためか、めずらしく高度障害を感じました。  
8月11、12日スイス、あこがれていたダンブランシュ (Dent Blanche) 4357mに南稜より登頂。  
昨年の Zinal Rothorn (4221m) に続いてコンディションに恵まれての成功でした。大学入学と同時に付き合っていたタバコと今年3月に縁を切りまして、山歩きは随分楽になったのですが、老いのほうがどんどん追いかけて来る感じです。頑張らなくっちゃ。
- 佐藤拓哉 <sato.02413@apr.jgc.co.jp>  
>4期の佐藤です。  
昨年に引き続き、ゴールデンウィークに立山に行ってきました。今年は雪が異常に少なく、テン場の雷鳥平で5、6m少ない感じです。去年は真っ白だった立山の斜面も黒々とした岩肌を見せていました。2日の夜はテントが飛ばされそうな強風でした。3日は1日中雨でしたが、4日は快晴!!!!  
雷鳥沢に登り、剣御前の斜面を快調に剣沢小屋まで滑りました。剣岳も初夏の山といった感じでした。
- 田原 誠 <tahara.makoto@takenaka.co.jp>  
>『沢屋の足回りは?』  
29期の田原です。  
先日、仙台に戻ってきたことだし久しぶりに東北の沢に行こうかと思い、懐かしの『フェルトわらじ』を買いに行きました。  
まだ売ってるかなと不安を抱きつつサンライフとICI石井スポーツに行ってみた (佐藤さんの遊々館には時間の都合でいけなかった) のですが、案の定おいておらずしかもサンライフの兄ちゃんの『もうメーカーでも作っていない』との話に肩を落として帰りました。

個人的には今でも『地下タビにフェルトわらじ』が沢登には一番いいのではないかと考えています。食わず嫌いかも知れませんが、溪流タビでは足へのフィット感に不安があるし溪流シューズでは岩のホールド感や『へつり』に疑問があるし……。最近の沢屋さんはどうしているのでしょうか? 溪流タビが多いとは聞いていますが……。どなたか最新のアイテムを使っている方がいましたら、できればその使い心地等のご意見を聞かせてください。 - -

私の方は、あきらめきれずに高田馬場のカモシカスポーツに電話して聞いてみたけど置いてなくて、それでも食い下がって桜木町店までたどってやっと在庫が見つかりなんとか手に入れることができました。1足3000円弱なので他のアイテムに比べて決してバカ安い訳ではありませんが……。

山の道具の移り変わりを考えると、ずいぶん進んでいますよね。安い装備で苦労していた自分がおかしかったりして……。でも、今でも未だに抜けないやり方や変わらぬ道具とかも結構ありませんか? 以上、最近の出来事でした。 [7月30日記]

## 新年会のお知らせ

新年会は毎年1月の最終金曜日にいつもの所で行っています。

平成11年1月29日(金) 18:30

新橋駅のすぐ近くにある新橋亭(しんきょうてい)

会費は10,000円の予定

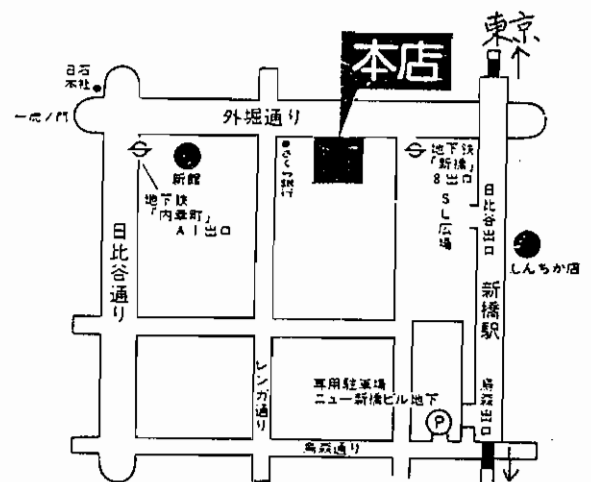
皆さんお誘いの上ご出席下さい。特に若い人の出席は大歓迎です。遠くの方でも、東京に出張などで来るような場合には、ぜひ出席して下さい。飛び込み大歓迎です。反対に、出席ということになっているのに、当日欠席される方も結構います。これは本当に幹事泣かせです。予定が変わった時は、早めにご連絡下さい。

問い合わせ、連絡先 佐藤拓哉 Tel 0468-41-8622 [sato.02413@apr.jgc.co.jp](mailto:sato.02413@apr.jgc.co.jp)

### 平成9年新年会出席者

(S39) 大津満、小俣勝男、岡好宗、後藤龍男、  
佐藤敦、松木功 (S40) 小原佑一、緑川学、  
(S41) 朝倉肇、海老央一、太田光二、桜洋一郎、  
渋谷尚武、瀬尾勝之、谷正美、築地操、真山晃一、  
横山雄一郎 (S42) 加藤邦明、渡辺文隆、青木祐二  
(S43) 五十嵐惇和、大木芳正、金子清敏、菊谷清、  
真尾征夫 (S44) 小笠原弘三、佐藤拓哉、濱聡、  
前田吉彦、水上俊彦 (S45) 伊藤千代子、富川正夫、  
原田博夫、桃谷尚安 (S46) 薄木三生、黒田和夫、  
菅原英行、高木良博、田中康則、野本健二、若佐則雄  
(S47) 園部式正 (S48) 藤田真利子、神山文範、  
松井一昭 (S49) 岡部安水、山田豊  
(S50) 直江真一 (S52) 横山登 (S55) 石川重年  
(S58) 石川勤、利根川敏 (S62) 伊田浩之、  
北村健太郎、小泉浩、森寿弘

以上57名



ご予約・お問合せは

☎ (03)3580-7811

### ★★ 編集後記 ★★

◇会報29号をお届けします。毎年どこかで同期会が開かれているようですが、事務局にはなかなか情報が入ってきません。同期会の様子をぜひOB会報に載せたいと思います。同期会の幹事の仕事のひとつとして、「同期会の様子を事務局に知らせる」ということを追加して下さい。もちろん、誰かを指名していただいても結構です。

◇近況報告を何人かの方をお願いしていますが、近況を送って下さるのは、いつも1/3程度です。

「忘れる前にポストへ」よろしくお願ひします。

◇年会費は1000円です。1ページ目の口座に振り振り込んで下さい。数年前の新年会から集めるのを止めました。

◇22期の西川さんのご好意で、TUWVOB会のホームページを開設しました。

### 平成9年1月～12月会計報告(東京口座)

#### 収入

繰越金	470,310
OB会費	30,000
利息	401
計	500,711

#### 支出

会報N028	56,270
近況報告等	5,600
事務通信費	5,130
次年度繰越	433,711
計	500,711

思えば18年前に変な病気を罹って体の平衡が取れなくなり、“立派な”身体障害者になって山に行くことはあきらめていた所、卒業(但しワングルの!)30周年ということで、安達太郎山のくろがね小屋に集まるという知らせを受け取った。

山頂はともかく何とかして、くろがね小屋だけでも行って仲間に会いたいものだと思います、いつもの如く拓哉に相談した所、「サポートしてやるから」という言葉に甘えて参加することにした。ついでに娘にも山と山仲間のよさを教えてやろうと、荷物運びも兼ねて「行こう」と声を掛けたら、最初はニベも無く断られた。しかし日が近づくにつれて「行く」と言い出したので、これ幸いとポーターと杖を兼ねさせることにした。

山行については会報に報告があると思うので省略。

当日は両手にストックを持ち空身で自分のペースで歩いていたら、デカイザックを背負った人から「速すぎる」と注文が出た。うれしいのだよ、また山に来られたということは。

一晩泊まってそのまま下山?するつもりでいたら、「手を引いてやるから、山頂まで行こう」とのお言葉にまた甘え、両側から支えて貰ってエッチラオッチラ。天気は良いし、気心の知れた仲間と過ごす時間がたつのは早いもの。とうとう頂上に立ち回りを見わたわす気分の良いこと、言葉には尽くせない……。

懐かしい山、すばらしい仲間に囲まれて我が人生で最良の日でありました。この機会を与えてくれた皆様に、改めて感謝します。

ありがとう!

蛇足：また誘ってくれないかしら……。

『至仏登頂断念』 21期 坂本 務  
 「今年の夏休みは下の子が6歳になり結構歩けるようになったので、尾瀬・至仏山荘1泊、昨年より解禁となった至仏山登頂を企てました。梅雨明けが曖昧なまま8月2日鳩待峠から尾瀬ヶ原へ。約20年ぶりの尾瀬ヶ原は1年の夏合宿、武尊から越後三山へのヤブ縦走で怪我人の治療のため至仏から降り立った予定外テンバ。ヤブ稜線に比べその華やかな都会はなんと眩しかったことか。その思い出を秘めて家族で訪れた現代の尾瀬ヶ原は、花が終わっていたこともあり感慨が弱め。ワングル時代には考えられないような贅沢な山小屋の夜を過ごし、早めに就寝。夜中の強い雨音にいやな予感。翌朝、雨はほとんどあがっていたので、予定通り至仏へ。取り付きの木道までは良かったが、登りになるといきなり登山道が沢。ジャバジャバ音を立てて流れる「沢水」でほどなく子供たちの運動靴は「グチュグチュ」状態に。「もう、帰ろー」とブー言う子供たちをだましだまし、何とかたどり着いた樹林限界からの尾瀬ヶ原全景は20年前に、怪我の仲間をかばいながらゆっくり、ゆっくり降りた時に脳裏に焼き付けた情景を走馬燈のように思い出させ、パパ一人感慨に耽っていました。来年も行くぞ!」

今年は異常気象が続いた。これは正月山行から既に始まっていた。ホウオウ三山を目指したのは、低気圧をやり過ごした31日であった。思惑どおり快晴。元旦もよい天気と読んでいたら、なんと吹雪。テントが揺さぶられる。強風の中をどうにか薬師岳へ登る。そして夜叉神峠に向かう2日はまた快晴。峠から北岳の遭難救助の様子がよく見える。

3月は吾妻へスキー登山。この季節の雪は本当に滑りにくい。まるで初心者に戻ってしまう。吾妻小屋の遠藤さんのお世話になり、2日目は土湯温泉に下る。

5月は例年どおり(まだ2年目だが)立山・雷鳥沢にテントを張り、スキー三昧。天気は快晴、剣御前から剣沢小屋への滑降が最高。ただ、最後の楽しみの御山谷の大滑降は雪が少なく、来年回し。

この後、相棒がエンストし、1年間のお休み。

9月のOB山行は小原さんと、8期の同期会はどうか二人で参加。

鈴木禄弥先生 学士院会員へ

ワングル創立期から暖かくご指導いただいた  
初代部長の鈴木禄弥先生が、12月14日の学  
士院総会において新会員になりました。

おめでとうございます！！

新聞によれば、「法律制度・概念を徹底して  
機能的に分析する点に方法の特色があり、物  
権法、担保物権法、借地借家法に優れた成果  
を上げた」ということです。

昨年、中国訪問の際、ご病気になりました  
が、現在は体調も戻られ、ますますご活躍さ  
れています。

ささやかではありますが、ワングルOB会と  
して記念品を贈らせていただきました。

(8期 佐藤)

9月の安達太朗山行は申し合なく 毎10分まで可ぬ。  
二本松駅で30年ぶりに顔を見合せた。即現役の頃への  
又1077。あふく呼吸で歩み始まる。(今更ら山行会に入り  
2009は2000より) 青一色に7107。山小屋と温泉。お酒に  
満天の星。11-モカと歌戸。朝焼けの雲海、複線、頂上、お  
100桌満桌の150桌に由る山行だった。(10月10日までは、今更ら  
継ぎのツク。音のツクが4000の歩みで勝利の音中に10000だった)  
おかげ様で7000の自信をつきました。

山行の 3日間の誕生日に4107

Mikka  
Micko  
Mountain ) 09. 31. 00 と前12. 毎月3日に

山行を10日と決心して、9月高校の同級会にて宣言し、同行  
者と暮らさず、やはり山行会にて。今更ら(中3の娘が、  
10月30日、早稲田、12月30日、セツ森と二人で歩きました。7/3は  
2A00に2年-9月。10月1日、東春。娘はここを越え、横浜の高校へ。  
私一人。単独行は20年ほど前。又、山への想い、10月1日  
に、2107。ここを越え、東北近辺の山。3月10日。せいの  
声で1077。のんびり山と歩(4107)。

宮下 美恵子  
(1944年)



5.4.98  
創会  
和-創設小屋

Sato